

保育者・小学校教諭を目指す学生の読譜力とリズム感について

— 東海学園大学人文学部発達教育学科第2期生の実態調査より —

About the Score reading skills and sense of rhythm of the student who aims to be a Kindergarten Teacher or an Elementary school Teacher

—The survey of the department 2nd term student of the Tokai Gakuen University Humanities of Human Development and Education—

高御堂 愛子

Aiko TAKAMIDO

キーワード：保育者，小学校教諭，読譜能力，リズム感，音楽経験，幼少時の遊び

Key words : Kindergarten teacher, Elementary school teacher, Score reading skills, Sense of rhythm, Music experience, Play of a childhood

要約

本研究は、本学発達教育学科第2期生76名の「入学前の音楽経験」、「幼少期の遊び経験」の質問紙調査と「リズム唱・リズム打ち」の実技調査から学生の「読譜能力とリズム感」について考察をした。第2期生は、45%がピアノ未経験者で、バイエル程度のピアノ初心者を含め、読譜が苦手であると回答している。「リズム唱・リズム打ち」の課題合格者は、76名中18名（23%）と少なく、その中の3名は、ピアノ未経験者であった。18名のリズム合格者に共通した事柄は、彼女達が中学校・高校で音楽系部活動の吹奏楽やオーケストラに所属し、ピアノ以外の楽器の演奏ができたことである。さらに「幼少期の遊び経験」においても、幼稚園・保育園の年少から小学校高学年まで長期間に渡って遊び込んでおり、どの遊びも得意であると意識している学生が殆どであった。

反対にピアノ経験がありピアノ習熟度も高い17名の「リズム打ち」不合格者の特徴は、遊び経験が少なく、遊びが苦手な音楽系部活に所属していない学生が多かった。

以上の結果から、幼少期の遊び経験や部活の音楽活動等が読譜力やリズム感の育成に大変深い関係があることが分かった。

そこで、学生のリズム読譜力を高めるために、楽譜（リズム譜）のリズム学習に遊びを取り入れた授業改革が重要であることを再認識した。

Abstract

This research considered the student's skill of reading a score and sense of rhythm from music experience of the 2nd term student, play experience of a childhood term, investigation of the rhythm skill test. 45% of students amongst 76 were inexperienced with the piano. The beginners of the piano were weak at reading a score.

Rhythm successful candidates were 18 persons (23%) of 76 and a very low rate.

Three successful candidate were inexperienced with the piano.

The rhythm successful candidates belonged to a music club <wind-instrument music> and orchestra in junior high school and high school. They have played musical instruments other than a piano.

They had answered that any for not play was their favorite. The rhythm unsuccessful applicant's feature were poor at play, and did not belong to a music club. Even if a person is experienced in piano, it is proof that 17 students became a failure even if their piano level was high.

The above result showed the training of skill in reading a score and sense of rhythm are from playing experience during childhood, musical club activities, and that influence is very deep.

はじめに

大学の全入時代を迎えた近年、養成校に入学してくる学生の多くはピアノ経験や音楽経験のない学生が極めて多く見られる。超少子化が深刻化している今日、まさに少子化の時代に成長した学生たちが、単に“子どもが好き”“資格が取得できる”などの理由で入学する学生が目立つ昨今である。将来、彼等は子ども達の間人形成にかかわる重要な立場に携わるだけに、誠に事態は深刻であるといわねばならない。

さて、本学の人文学部発達教育学科は、平成22年度4月第3期生を迎えた。筆者は、昨年（平成21年）、「保育者養成における音楽教育の今日的課題を探る」をテーマに平成20年度入学の発達教育学科第一期生50名の音楽歴の実態調査と保育者・職に関する意識調査を行い、学生の抱える音楽的課題や問題点を解明し、学生が最も苦手とする「読譜力」の習得を基盤に自学実習のできる学生の育成を目的とした授業改革を実施した。

結果、学生は、音楽学習の仕方を学び、成就の喜びを体験する中で「読譜力」のレベルが上がり、自ら楽譜を読みピアノ練習に取り組むようになった。彼等の入学当初の音楽学習は、先生、友人、CDや機器に依存し、極めて困難な状況であった。その彼等が自主性を発揮し、音楽意識にも著しい変化をみせる効果があったことを報告した。¹⁾ 筆者は改めてこの報告を通して指導法

研究の重要性を再認識した次第である。

そこで、本稿は、継続研究として平成21年度入学の第2期生対象に保育者・教員養成に必要とされる音楽能力の一つである「リズム読譜力」の習得に視点をあて研究を進めたい。ここで言う「リズム読譜能力」とは、楽譜を見て「リズム打ち」と「リズム唱」ができる能力という意味で捉えている（以後、リズム読譜能力と述べる）。

「リズム打ち」は、手拍子、足拍子、ひざ打ち、机上打ち、歩く、走るなどである。

「リズム唱」は4分音符を1拍とした場合 ♩(1拍)・・タン ♪(半拍)・・タ、♪(1拍半)・ターア、♪(1拍)・・タタとうたう。

さて、本学の平成21年度入学第2期生の音楽基礎技能科目は表1の通りである。

表1 平成21年度入学生

1年春学期	1年秋学期	2年春学期	2年秋学期
音楽Ⅰ (ピアノ・音楽理論)	音楽Ⅱ (ピアノ・歌唱)	音楽Ⅲ (ピアノ・弾き歌い①)	音楽Ⅳ (ピアノ・弾き歌い②)
ピアノ(個人レッスン)	ピアノ(個人レッスン)	ピアノ(個人レッスン)	ピアノ(個人レッスン)
音楽理論(ML授業)	歌唱(ML授業)	弾き歌い①(ML授業)	弾き歌い②(ML授業)
音楽授業は「ピアノ」の個人レッスンとMLでの集団授業の2本立てで成り立っている。1クラスを前半後半に分け、各班が交互にピアノ・ML授業を受講する。ピアノ個人レッスンとML授業を45分で入れ替える			

筆者はMLによる集団授業の「音楽理論」「歌唱」「弾き歌い①」「弾き歌い②」を担当している。ピアノの個人レッスンは、非常勤講師6名で担当し1学年を3クラスに分け、授業が行われている。ピアノ個人レッスンは講師一名に対して90分4～5名の学生が受講する。

さて、音楽Ⅰ「音楽理論」では、拙著の「音楽の基礎」²⁾、音楽Ⅱ「歌唱」、音楽Ⅲ「弾き歌い①」、音楽Ⅳ「弾き歌い②」の授業では「こどものうた200」・「続こどものうた200」³⁾、拙著「楽しい音楽表現」⁴⁾の教材を使用している。「歌唱」の授業では、声楽の基礎技術を学び、様々な幼児歌曲や歌曲を歌う楽しさを通して、創造的な歌唱表現力について学ぶことを目標に、特に歌唱技術(姿勢、呼吸、発声法)の習得、ソルフェージュ(初見・視唱練習)を通して読譜力を養い、正しい音程・リズムで歌い、弾く音楽活動の基礎的能力を育てることをねらいとしている。

また、「弾き歌い①②」では、小学校・幼稚園教諭、保育者に必要とされる基礎的なピアノ演奏技術の習得、コードネームによる簡易伴奏法を習得し、子どもの歌の「弾き歌い」曲のレパートリーを広げることを授業の到達目標及びテーマとしている。

保育者養成の子どもの歌唱教材には、多数のスキップのリズム(付点8分音符+16分音符)で作曲されたものが多数見られる。「お帰りのうた」⁵⁾の付点8分音符と16分音符のスキップの「タッカ」のリズムは、初心者、経験者を問わず学生の演奏は、曖昧なリズムになり、学生がこのリズムに四苦八苦するところである。学生の演奏は「タッカ」のリズムが8分音符3つの3連

符になりやすく、歌いながら弾くのは、特に初心者の学生には難しいリズムである。

さて、ここで男子学生Aの事例を報告する。

Aは、ピアノ未経験者で、ピアノが苦手な学生である。Aに「お帰りのうた」に「リズム打ち」と「リズム唱」の課題をさせる。Aのリズム唱は、スキップのリズムが「タッカ」ではなく「タタ タタ」となってしまう。彼は、何度も試みるが出来ない。そこで、ピアノ伴奏に合わせて「スキップ」のステップをさせるがAは跳べない。Aの身体がスキップのリズムに順応できない。Aの様子をしばらく観察してみるとAはまったく音楽のリズムを聴き取ろうとしていなかった。この学生の自由記述から彼は幼少期から両親が共働きのため鍵っ子で育ったと述べている。また、Aの父親は非常に厳格で彼は普通の子もたちの様に父親と余り遊んだ記憶がないと述べている。彼は、いつも家の中で一人で遊び、テレビが友達であったと記述している。

Aと同様に「タッカ」の付点のリズムの取れない、動けない学生が他にも多数いた。筆者は上述の学生たちのリズムが取れない原因が幼少期の遊びと関係があるのではないかと考えた。それは、幼少期に多く遊び込んだ経験のある人ほど遊びのなかで育つ感性やリズム感覚を獲得したのではないかと推測するからである。

そこで、平成21年度入学の発達教育学科第2期生76名を対象に幼少期の遊びとリズム読譜能力との関係を探るために「入学前の音楽経験」と「幼少期の遊び」の質問紙調査と「リズム打ち」の実技調査を実施した。本調査の結果をふまえて、今後の学生のリズム指導を探るものである。

方 法

1. 調査時期

平成22年6月3日（質問紙によるアンケート調査）

平成22年6月10日（実技調査実施）

2. 調査対象

東海学園大学人文学部発達教育学科2年生76名（男子32名、女子44名）回収率100%。

3. 調査内容

(1) アンケート調査

①入学前の音楽経験と楽譜に関する認識（1年次）

②2年次における音楽意識

③幼少時の遊び経験（ケンケンパ、大縄とび、ゴム跳び、なわ跳び、まりつき、アルプス一万尺、みかんの花咲く丘）

(2) リズム調査 音楽Ⅲ（弾き歌い①）の授業において実施、ピアノレッスン室で学生に個別対応

①4/4拍子、2小節の3種類のリズム譜を与えリズム唱と手拍子でリズムをとる

音楽Ⅲ（ピアノ・弾き歌い①）の授業初めに調査票を配布、実施及び回収。記名式。

調査票は平成19年度全国大学音楽教育学会中部地区学会作成の調査票「入学前の音楽経験の有無」⁶⁾と「幼小期の遊び」に関する調査票は、最後に掲載の調査資料1を使用。⁷⁾

結果と考察

1. 学生の入学前の音楽経験

(1) 入学前のピアノ経験の有無（第1期生と第2期生の比較）

さて、図1は、保育者・教員を目指して本学へ入学した第1期生（平成20年度入学）と第2期生（平成21年度入学）の入学前の音楽経験の有無を比較したものである。回答者の男女比は第1期生男子20名、女子28名、第2期生男子32名、女子44名である。

第1期生の48名中24名はピアノ経験があり（50%）、ピアノ経験なし（50%）と同率回答をしており、男子全員がピアノ経験なしという男女差のある回答であった。⁷⁾

では、第2期生の特徴は、76名中42名がピアノ経験者（55%）の内、女子33人（43.4%）の他に男子9名（12%）の経験者が出現したことである。2期生のピアノ経験者42名（55%）の中の11名（14%）の学生は、ピアノ経験年数が8年以上と非常に長く、この学生たちは、自由記述で、全員が、音楽好きで、特に、ピアノを弾くことが好きであると回答していた。

さて、第2期生の入学時におけるピアノの習熟度はどのレベルであったかを調査記述からまとめたものが図2である。

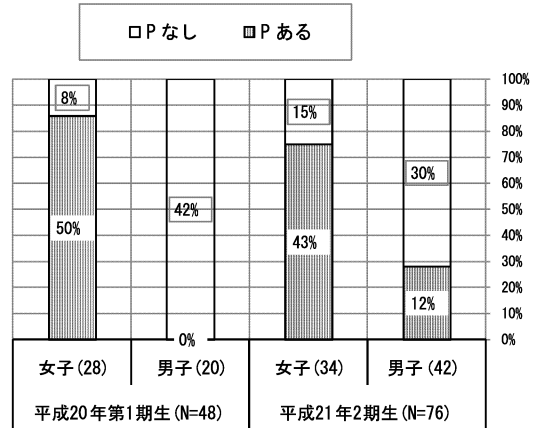


図1 入学前のピアノ経験の有無
（平成20年度第1期生と平成21年度第2期生の比較）

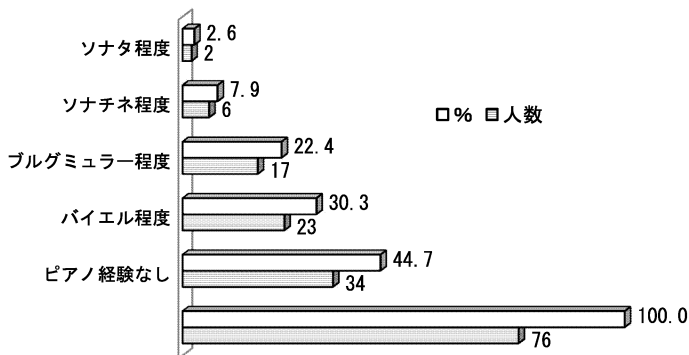


図2 入学前のピアノ習熟度

学生のピアノ経験ありの42名(55%)の内23名がバイエル初心者(30.3%)、ブルグミュラー程度17名(22.4%)、上級者のソナチネ6名(7.9%)、ソナタ2名(2.6%)であった。第2期生のピアノ未経験者34名(44.7%)とバイエル初心者23名(30.3%)を合わせると80%となり、第2期生は第1期生同様に音楽経験の浅い学生が多数入学していた。

では、学生たちは、ピアノを弾くために必要な音楽の基礎知識である楽譜の読み方をどこで覚えたのであろうか。次の図3より検証してみる。

2. 楽譜の学習方法

(1) 楽譜の読み方をおぼえたところ

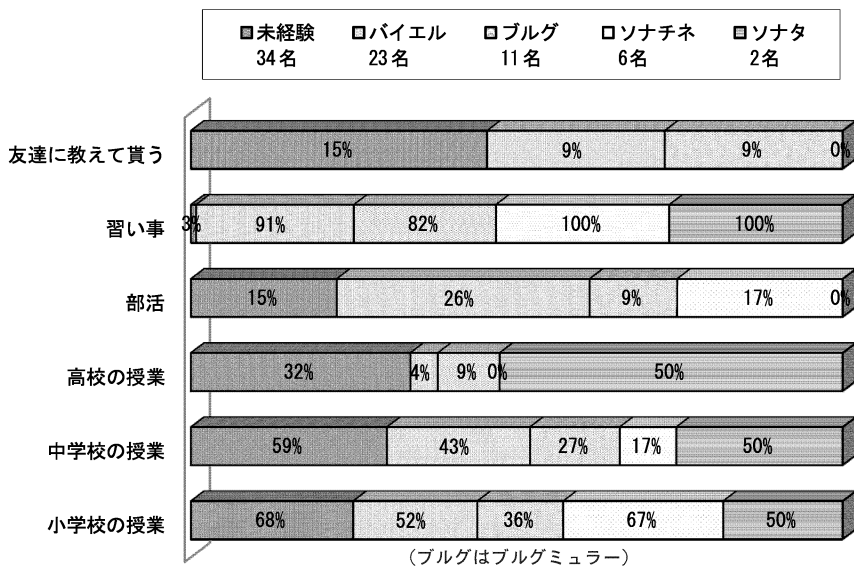


図3 楽譜の読み方を覚えたところ (有効回答数=158)

図3は、学生に楽譜の読み方をどこで学んだかを尋ねたものである。楽譜の読み方を覚えた所は、「小学校」「中学校」「高校」の各授業からと、「部活」「習い事」「友だちに教えてもらう」「独学」「その他」の8項目からの選択肢を設けた。「ピアノ習熟度別」を見ると、バイエル23(91%)、ブルグミュラー11名中9名(82%)、ソナチネ6名中6名(100%)、ソナタ2名中2名(100%)とピアノの習熟度の高い学生ほど「楽譜の読み方」については、「習い事」で覚えたと意識している。但し、バイエル23名は殆んどがバイエルの10番程度の初心者である。高校の先生や入学前のレッスンの覚えたというものを指す。

一方ブルグミュラー以外の「ピアノ未経験」、「バイエル初心者」、「ソナチネ」、「ソナタ」の学生は小学校での授業でも楽譜の読み方を覚えた意識しており、特にピアノ未経験者は、小学校・中学・高校で覚えたと強く意識している。本学の第2期生は、第1期生と同じく、ピアノ経験者は、「習い事」で覚えたと意識しており、未経験者は、学校教育で覚えたと意識していた。しか

しこの未経験学生は、授業で覚えたと回答しているが、実際にどの程度、楽譜が読めるのか、その読譜力については、この結果からは分からない。

そこで、学生自身が、どの程度楽譜を読む力(以下読譜力という)を持っているのかを「全く読めない」から「かなり読める」までの5段階で設問し図4に回答を求めた。

(2) 学生の読譜に関する認識度

図4は、学生の読譜に関する意識調査を表したものである。「楽譜が読めますか」の設問に、全体とピアノ習熟度別に表した。全体から見ると45%の学生は、楽譜を読むのが苦手であると意識しており、50%の学生が楽譜を読めると意識している。では、習熟別にみるとブルグミュラー91%、ソナチネ100%、ソナタ100%の学生はよく読めるという意識が強いのが分かる。

これは、図2の習熟度の高い学生ほど「楽譜の読み方」については、「習い事」で覚えたと意識している、つまり楽譜

を覚えたところは「習い事」であることが検証された。しかし、未経験者は学校で覚えたと意識しているにもかかわらず80%の「全く読めない～やや読めない」と楽譜が読めないと意識している。この現状は、学校教育の「音楽」授業で、「読譜力」を身につけ、自主的に音楽を楽しむまでに至っていないのは、明らかである。しかし特筆すべきは、ピアノ未経験者の21%の学生は、読譜力が「ある」と意識している、この点が、本研究の課題解決の糸口ではないかと推測する。彼らの音楽歴の調査が必要である。

では、学生達は、どのようにして「新しい歌」を覚えたのであろうか。図5「うたの覚え方」(複数回答)は、第2期生の1年時と2年時を比較して表したものである。

3. 歌の習得方法

(1) 「歌の覚え方」(複数回答)

図5の「新しい歌の習得方法」は、第2期生の1年の入学時の意識と2年時6月における意識を比較したものである。1年の入学時の特徴は、76名中66名(87%)の学生が「CD等の音源を聴いて覚える」とあり、43%の学生が「友人、先生の歌うのを聴いて覚える」という回答であった。つまりCDや先生友人の歌うのを聴いて「耳コピ」で覚えるという回答は、将来保育者や教

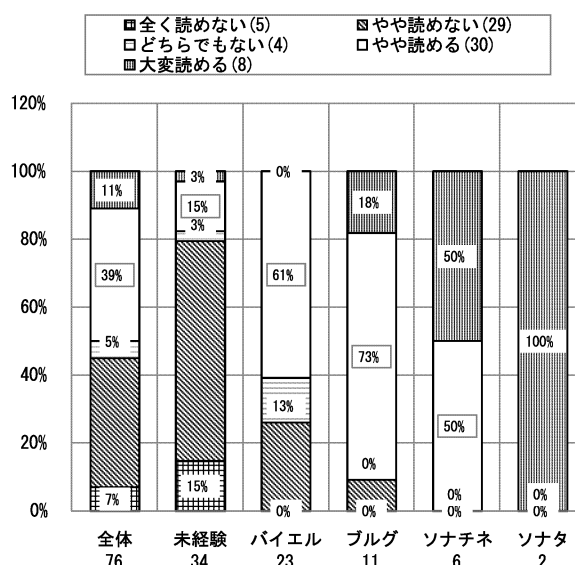


図4 楽譜が読めますか (N=76)

員を目指す学生にとっては、甚だ消極的な回答である。彼等には、保育者に求められる読譜力を習得し、新しい歌や曲に挑戦できる力を身につけて欲しい。永久に第三者をあてにするわけもいかない。学校教育の音楽は、歌唱のみではなく楽器の演奏、創作、鑑賞など様々な指導が彼等に求められる。「耳コピ」に依存せず、あらゆる音楽を取り入れ情報を伝えていく能力、音楽の基礎能力、読譜能力が求められるのである。

2年時の6月には「CD等の音源を聴いて覚える」の回答割合がやや減り87%

から67%となり、反対に「楽譜を読んで覚える」が38%から58%と高くなっている。この結果は1年間の音楽Ⅰ（ピアノ・音楽理論）、音楽Ⅱ（ピアノ・歌唱）、音楽Ⅲ（ピアノ・弾き歌い）の学習において楽譜の読み方の基礎と継続的なトレーニングの成果が、「自学自習」の形になって表れたものと推測できる。学生の読譜能力は確実に毎授業の練習で上昇したのを検証したが、しかし、リズムに関しては多くの課題が残っている。特に子どもの歌唱教材には付点8分音符と16分音符のスキップのリズムが多く、学生のピアノ演奏や歌唱にはこの「スキップ」のリズムが甚だ曖昧な演奏になる学生が多く見られる。

そこで、次に学生のリズム読譜能力について検証することにする。実技課題は、4分の4拍子、2小節の課題を3つ取り上げ「リズム打ち・リズム唱」を実施した課題が図6である。

4. リズム読譜能力

(1) リズム打ちとリズム唱

図6の3つのリズム譜は、学生に与えたりズム課題である。非常にやさしい課題である。

①タン タン タン ウン×2

②タン タン タン タタ×2

③タン タタ タン タッカ×2

<実技方法>

*3つの課題を「タンタン・・・」とリズム唱で歌いながら同時に手でもリズム打ちをする。

*ピアノレッスン室にて学生一人ずつ入室させ、3つリズム課題を提示し、即実践させる。

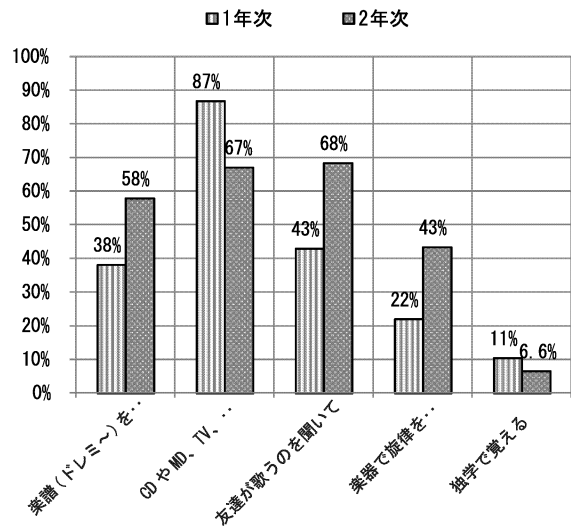


図5 歌の覚え方（複数回答）

「第2期生の1年次」回答数=153、2年次回答数=186



図6 3種類のリズムパターン

* 審査は筆者と音楽非常勤講師の2名で対応する。

(2) 「リズム調査合格率」

図7は、リズム課題の合格率を表したものである。

では、①の非常にやさしいリズム課題は、75名(99%)の合格者である。②のリズム課題も同様に大変簡単で70名の合格である。しかし、③の課題になると「タッカ」のリズムを正しく打てたのは、76名中18名(23%)の女子のみであった。結果3つの課題全部が合格したのは、③番の課題に合格した18名の女子のみであった。

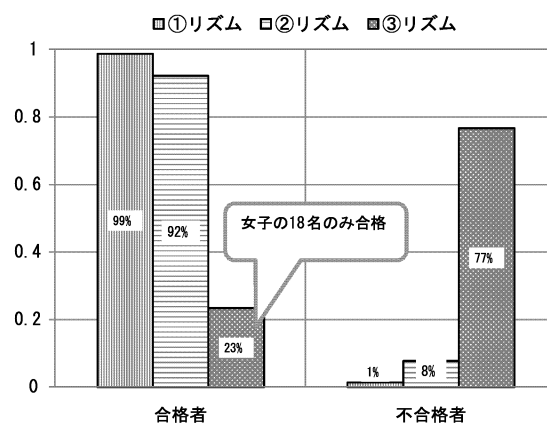


図7 リズム打ちの合否 (N=76)

5. 幼少期の遊び

そこで、この18名の合格者が、幼少時にどんな遊びを経験したのか、遊んだ期間、遊んだ場所、遊びの得意度について探りリズムとの関連を探ることにした。

幼児時期に遊び込んだ子どもほど、自然に身体に遊びを通してリズム感を身につけたと思われる。しかし、大人になってから習得するリズム感は、初心者学生にとっては極めて厳しい状況である。「タッカ」のリズムができた学生は、幼少時に遊び込んでいたのではないかという仮説を立て学生の動向を調査した。

幼少期にする遊びの中には、跳んだり、走ったり、スキップしたりする動きや歌を伴った遊びが多くみられる。子どもの歌は、子どもの律動に沿ったリズムの豊かな歌が多くある。そこで調査対象の幼少期の遊びは、動き、歌を伴ったものを条件に選出した。8つの遊びは、①ケンケンパ、②バンブーリズムとび、③大なわとび、④ゴム跳び、⑤なわとび、⑥まりつき、⑦アルプス一万尺、⑧ミカンの花咲く丘の遊びである。調査内容は、遊んだ経験、場所、時期、遊びの得意度などである。

そこで、ここでは、(歌なしで動きを伴う)「ケンケンパ」、まりつき(歌あり・動きあり)の「あんたがたどこさ」、手遊び(歌あり)の「アルプス一万尺」、の3つの事例を取り上げ検討した。

(1) 遊びの得意度

さて、右記の3つの遊び図8-1（ケンケンパ）、図8-2（まりつき）、図8-3（アルプス一万尺）の得意度から分析をする。この各々の表は、リズム合格者18名とリズム不合格者58名の比較である。図8-1（ケンケンパ）と図8-3（アルプス一万尺）の得意度は、「やや得意」～「得意」の89%の合格者が得意と意識しており、図8-2（まりつき）の得意度は、合格者の「やや得意」～「得意」の100%全員が得意であると意識しているのがわかる。不合格者の得意度は（ケンケンパ）（アルプス一万尺）の「普通」53%と「あまり得意でない」24%の77%が得意でないと意識している。では図8-2（まりつき）の得意度はどうであろうか。「普通」と「あまり得意でない」を合せて74%と殆んど同じ数値ある。この結果から合格者の18名は遊びを得意と意識しており、不合格者は遊びをあまり得意でないと意識している。では、「ケンケンパ」「まりつき」「アルプス一万尺」の遊びをした時期はいつごろであろうか。次の図9-1、図9-2、図9-3に遊んだ時期を表した。

(2) 遊びの時期

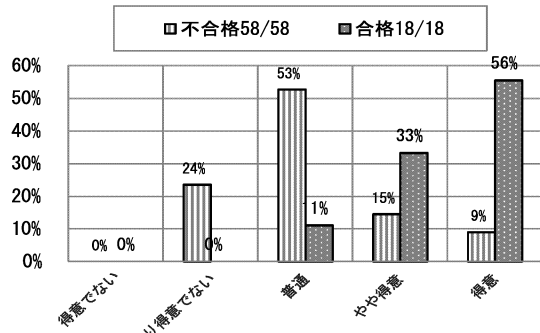


図8-1 遊びの得意度（ケンケンパ）

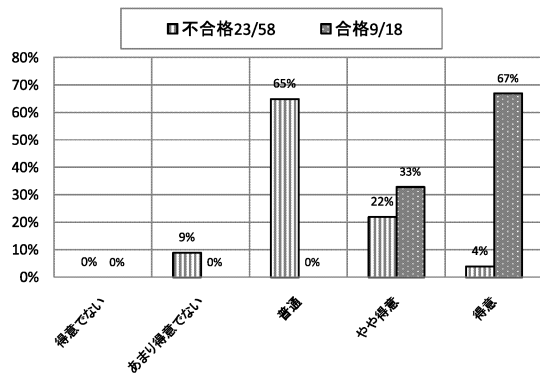


図8-2 遊びの得意度（まりつき）

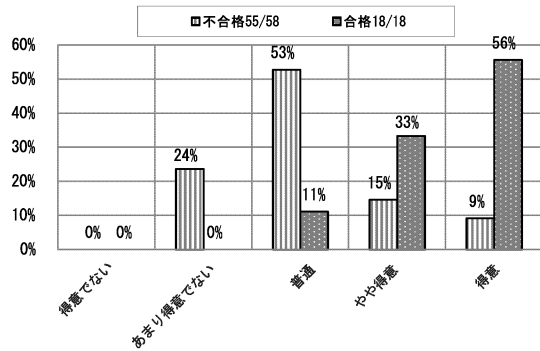


図8-3 遊びの得意度（アルプス一万尺）

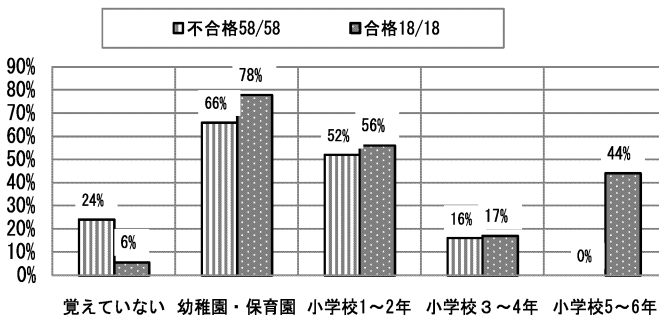


図9-1 遊んだ時期（ケンケンパ）

さて、図9-1～図9-3は、幼少時の「遊んだ時期」を、「ケンケンパ」「まりつき」「アルプス一万尺」より調査したものである。図9-1「ケンケンパ」の合格者は幼稚園・保育園時代に78%と一番盛り上がりを示し、小学校低学年56%から小学校5～6年44%までかなり長い間遊びが続いている。図9-2「まりつき」の合格者は、幼保時期44%から小学校1～2年78%までが大変盛んである。図9-3「アルプス一万尺」は、合格者の遊んだ時期が幼保育園から小学校4年生にピークに上昇している。不合格者より合格者の方が幼少期から長い期間、積極的に遊んでいるのが分る。

この結果から18名の学生の方が不合格者の58名より積極的に身体を動かして遊び込んでいるおり、リズム理解との関係がこの幼少期に育まれてのではないかと推測できる。

では、なぜ彼女たちが初見でリズム譜ができたのか、入学前の音楽経験より音楽系部活動経験について視点をあて分析した。

リズム打ちの合否者の習熟度別で明らかになったことは、18名の中の16名は、ピアノの経験者であり、かなり進んでいる者である。残りの3名は、全くピアノ経験がなく、ピアノ未経験者であり、本学へ入学してからピアノの技能を習得している。

さて、図10は、リズム合格者の音楽等部活動経験者の有無を表したものである。この表から明らかになったのは18名中11名の学生が、中学・高校で吹奏楽など音楽系部活動（吹奏楽、オーケストラ、合唱）に所属していた。

その内の3名は、全くのピアノの未経験者であった。このことは、音楽系部活動が、

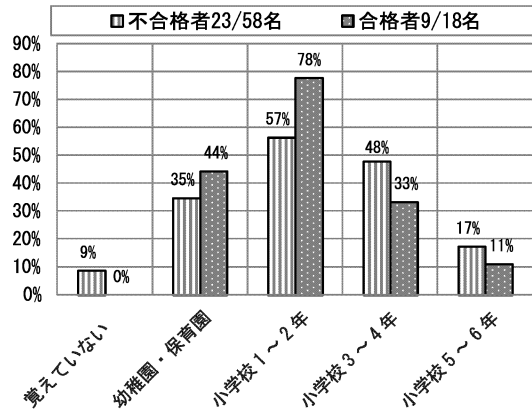


図9-2 遊んだ時期 (まりつき)

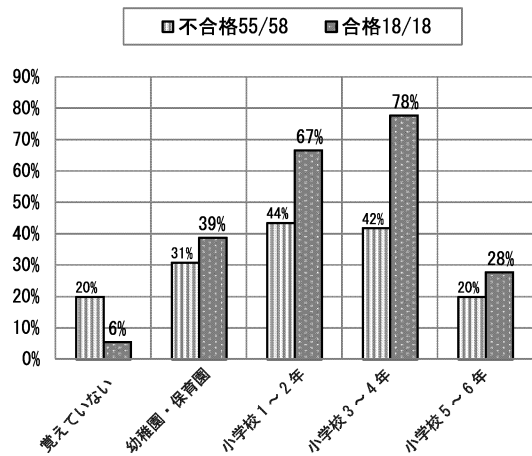


図9-3 遊んだ時期 (アルプス一万尺)

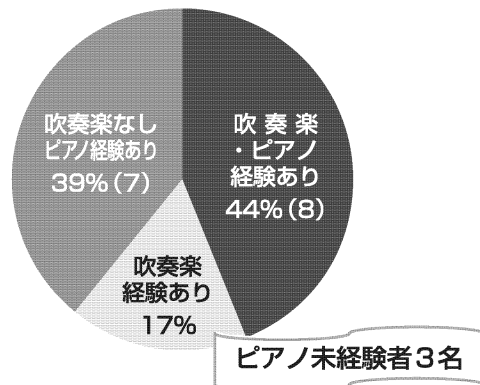


図10 リズム合格者の音楽系部活動経験の有無

リズムを習得するには大きな効果があったと思われる。それは吹奏楽やオーケストラでは常に指揮者を立て日々拍子を感じて演奏するという経験が、大きく影響をしているのではないかとと思われる。

反対に、ピアノの進度が高く、遊びの経験があっても、3種類のリズム打ちの内③のリズムができない学生が17名もいたことは、リズム学習の問題点がここにあるのではないかと推測した。そこで、この学生の「新しい歌の習得方法からその原因を探ってみた。

図11は③のリズムができなかった17名である。これらの学生は、やはりCDやMDなど視聴覚機に頼り、学生は自分で読譜しようとして、「耳コピ」でピアノを練習してきた傾向がいちばん強くみられた。自分自身の目で楽譜を読んで練習する習慣がないことが、簡単なリズム譜も困難と感じてしまうのかもしれない。このことが、リズム譜を読むことに影響していると考えられる。

その他、ピアノ経験と遊び込んだ経験のない学生は、3種類の課題のリズム打ちのなかで②と③のリズムを苦手としていることも明

らかになった。学生の年齢になってから技術を習得するには、練習時間や練習方法の工夫が必要があることはこの調査から明らかである。しかし、学生の自由記述からは、音楽が好きだと回答していた。

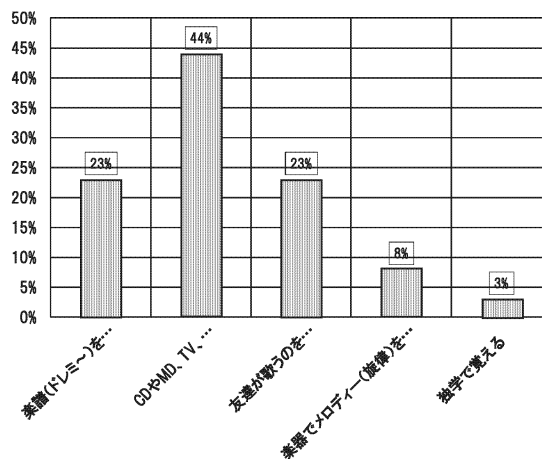


図11 ピアノの進度が高く、遊びの経験があっても、③のリズム課題が不合格者の新しい歌の習得方法 (N=39)

考 察

今回リズム読譜能力を取り上げ、遊びとの関連を探ったのは、ゲーム・メディア世代と言われる今の学生が、幼少時にどのような遊び込みをしたのか、それがリズム把握と関係しているのかを探るためであった。

将来保育者になって遊びの指導や援助をする立場となる学生に、保育者養成にたずさわる我々は、今後どのような音楽の指導をしていけば良いのかを考えなければならない。スキップができない学生が近年増えていることが、タッカのリズムが取れない学生が増えていることに関係しているとする、単に基礎技能の音楽だけでリズム読譜能力を育てるのではなく、保育内容「表現」など基礎技能「音楽」とが密に連携した指導が重要と考える。

音楽活動を展開するには、ピアノの基礎技能は必要である。しかし、保育者や小学校教諭にはそれをいかにして活かすかの能力が求められる。それには、指導者自身が子どもの発達や教材を熟知し、

日ごろから研究しなければならない。そのために、我々は、保育内容表現だけでなく他領域との連携を密に、我々自身が、子どもについて学び、学生指導していくことが重要であろう。

本調査の結果を踏まえて、まず、第一に保育者・教育を目指す者は、遊びを多く知り経験し、第二に音楽の基礎知識は必ず習得すること。更に色々なリズム遊びを通して、遊びが持っているリズムを楽譜で理解できるようになることが、効果的にリズム感の習得に繋がるのではないかと考えた。

つまり、タッカのリズムを習得するために、幼少時に体験した遊びの「あんだかたどこさ」のリズムをはめこんだり、実際に学生自身にスキップをさせたりすることなどが挙げられる。

本学の学生は、入学時には約半数に近い学生がピアノ未経験者であるが、1年半の期間にかなりピアノ技術の進歩がみられる。

しかし、リズム合格者18名中の3名がピアノ未経験者であったこと、18名の共通事項は、小・中・高校で音楽系部活動の吹奏楽に所属し、また「幼少期の遊び」にも積極的に参加し、遊びが得意である者が殆どであった。

以上の結果から、リズム読譜能力は、幼少期における遊び、部活の音楽活動と大変深い関係があることを検証した。つまり、18名の学生は、幼少期に積極的に歌や動きを伴った遊びを経験し、また、一方の吹奏楽では指揮者のもと合奏するため常に拍子を感じて演奏（練習）するという厳しい経験をした者である。

そこで、今後の授業改革としてリズム読譜力の習得方法を以下にまとめてみた。①幼少時に体験した遊びにリズム音符をはめ込み、実際にスキップをさせる。②リズム打ちの練習を授業内に導入。③リズム教育の必要（学生は楽譜上でリズムを認識するのが苦手である。そこで楽譜の基礎知識、リズム遊びの追体験、遊びの中のリズムを楽譜として理解する）④イメージを湧かせる指導など日々の練習の積み重ねが必要である。以上の内容を取り込み授業改革を進めたいと考える。

終わりに

保育者・教員に求められる保育力は、子どもの発達を理解し、子どもが表現したいという気持ちを受け止め援助、指導できる力が求められている。また、一人一人の子どもの表現力〈音楽〉を引き出すための保育者としての高い専門性も求められている。そのためには、保育者・教員を目指す学生には、リズム読譜力を習得するための音楽基礎知識の獲得とリズムトレーニングが必要である。遊びを導入したリズム指導の成果を次回には報告したい。

調査資料 1

アンケートのお願い

このアンケートは、皆さんが幼少時にどのような遊びを経験されたのかお尋ねするものです。遊びに関するアンケート調査です。よく考えてありのままをお答えください。結果は、コンピューターによって統計的に処理されますので、あなた一人のみを問題にすることや、公表することは一切ありません。

なお、アンケートは、回答欄の□の中に該当する番号を書き入れてください。

平成 22 年 6 月 12 日

高御堂 愛子

2年/組 /学籍番号 /名前

あなたが、小学校を卒業するまでにした「あそび」についてお尋ねします。

質問 1 「ケン・ケン・パ」

1-1. あなたは「ケン・ケン・パ」であそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない

回答欄

○1-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

1-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生

4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生

回答欄

1-3. どこであそびましたか? 記入例に従って□の中に具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園

回答欄

1-4. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか? 該当するところに○を振ってください。

1

2

3

4

5

得意でない

あまり得意でない

普通

やや得意

得意

質問 2 「バンブーリズム跳び」

2-1. あなたは「バンブーリズム跳び」であそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない

回答欄

○2-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

2-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生

4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生

回答欄

2-3. どこであそびましたか? 記入例に従って□の中に具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園

回答欄

2-4. このあそびを、歌に合わせてしていましたか?

1. した 2. していなかった

回答欄

2-5. 2-4. で「した」と答えた人に質問です。その歌はどのような歌でしたか? □の中に具体的に書いてください。

回答欄

2-6. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか? 該当する番号に○を付けてください。

1

2

3

4

5

得意でない

あまり得意でない

普通

やや得意

得意

質問 3 「大縄跳び」

3-1. あなたは「大縄跳び」であそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない

回答欄

○3-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

3-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生
4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生 回答欄

3-3. どこであそびましたか? 記入例に従って具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園 回答欄

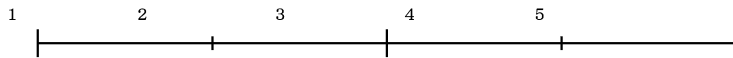
3-4. このあそびを、歌に合わせてしていましたか?

1. した 2. していなかった 回答欄

3-5. 3-4. で「した」と答えた人に質問です。その歌はどのような歌でしたか? □の中に具体的に書いてください。

回答欄

3-6. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか? 該当する番号に○を付けてください。



得意でない あまり得意でない 普通 やや得意 得意

質問4 「ゴム跳び」

4-1. あなたは「ゴム跳び」であそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない 回答欄

○4-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

4-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生
4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生 回答欄

4-3. どこであそびましたか? 記入例に従って具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園 回答欄

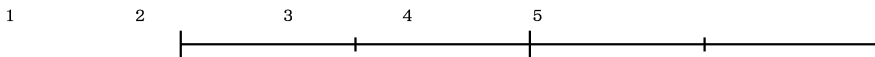
4-4. このあそびを、歌に合わせてしていましたか?

1. した 2. していなかった 回答欄

4-5. 4-4. で「した」と答えた人に質問です。その歌はどのような歌でしたか? □の中に具体的に書いてください。

回答欄

4-6. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか? 該当する番号に○を付けてください。



得意でない あまり得意でない 普通 やや得意 得意

質問5 「なわとび」

5-1. あなたは「なわとび」であそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない 回答欄

○5-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

5-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生
4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生 回答欄

5-3. どこであそびましたか? 記入例に従って具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園 回答欄

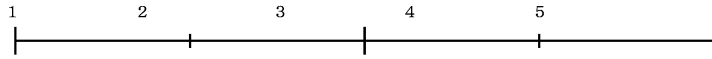
5-4. このあそびを、歌に合わせてしていましたか?

1. した 2. していなかった 回答欄

5-5. 5-4. で「した」と答えた人に質問です。その歌はどのような歌でしたか? □の中に具体的に書いてください。

回答欄

5-6. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか? 該当するところに○を振ってください。



得意でない あまり得意でない 普通 やや得意 得意

質問6 「まりつき」

6-1. あなたは「まりつき」であそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない 回答欄

○6-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

6-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生
4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生 回答欄

6-3. どこであそびましたか? 記入例に従って具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園 回答欄

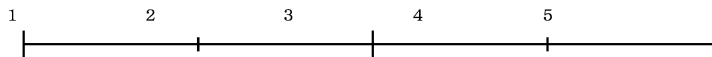
6-4. このあそびを、歌に合わせてしていましたか?

1. した 2. していなかった 回答欄

6-5. 6-4. で「した」と答えた人に質問です。その歌はどのような歌でしたか? □の中に歌詞や曲名などを具体的に書いてください。

回答欄

6-6. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか? 該当する番号に○を付けてください。



得意でない あまり得意でない 普通 やや得意 得意

質問7 「アルプス一万尺」

7-1. あなたは「アルプス一万尺」を手遊びであそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない 回答欄

○7-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

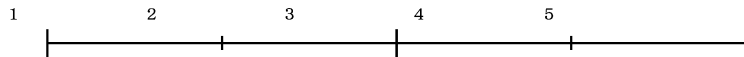
7-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生
4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生 回答欄

7-3. どこであそびましたか? 記入例に従って具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園 回答欄

7-4. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか? 該当するところに○を振ってください。



得意でない あまり得意でない 普通 やや得意 得意

質問8 「みかんの花咲く丘」

8-1. あなたは「みかんの花咲く丘」を手遊びであそんだことがありますか? 該当する番号を□の中に書いてください。

1. ある 2. ない 回答欄

○8-1. で「ある」と回答した方にお尋ねします。以下の質問にお答えください。

8-2. いつあそびましたか? 該当する番号を□の中に書いてください。(複数回答可)

1. 覚えていない 2. 幼稚園又は保育園の時 3. 小学校1~2年生
4. 小学校3~4年生 5. 小学校5~6年生 回答欄

8-3. どこであそびましたか? 記入例に従って具体的に書いてください。

例) 小学校の校庭 例) 自宅の近所の公園 回答欄

8-4. このあそびは、あなたにとって得意なあそびでしたか？ 該当する番号に○を付けてください。

1 2 3 4 5

得意でない あまり得意でない 普通 やや得意 得意

ご協力ありがとうございました。

引用文献

- 1) 高御堂愛子「東海学園大学人文学部発達教育学科第1期生の実態調査より」『保育者養成における音楽教育の今日的課題を探る』東海学園大学研究紀要第15号（シリーズB）人文学・健康科学研究編 2010 P189～P207
- 2) 高御堂愛子他編著「小学校教諭・幼稚園教諭・保育士をめざす人のための」『音楽の基礎』圭文社 2008
- 3) 小林美実編 『こどものうた 200』、『続こどものうた 200』 チャイルド社 2010
- 4) 高御堂愛子・植田光子・木許隆監修・編著「幼稚園教諭・保育士をめざす人のための」『楽しい音楽表現』圭文社 2009
- 5) 小林 前掲（2） p64
- 6) 高御堂 前掲（1） P205～P207
- 7) 調査資料1「幼少期の遊び」平成22年度高御堂愛子作成の調査票